

21世紀へのメッセージ

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



会長・幹事の皆さん、21世紀最初のロータリー新年度を迎えおめでとうございます。いつの間にかガバナー月信が、習慣的にすべてのロータリアンに配布されるようになりました。

ロータリアンに多くの情報を送ることが出来れば幸いです。

世界のいずこへも同じように輝く太陽は初夏の日差しで、みどりの美しい大地とともに私たちを祝福してくれています。

さわやかなうちに意見を交換して、より一層の親睦を深め、連帯感をもってロータリーの実践へ意欲的に熱く燃えてスタート致しましょう。

西暦604年聖徳太子が憲法17条を制定されました。その第1条に「和を以て尊しとなす」と定めておられます。「和」は簡単なことでもあり、難しいことでもあります。

「和」の心でロータリーを楽しみながら、充実した人生を皆さんと共に歩みたいと存じます。

ロータリーとは寛容であり、忍耐であります。

そしてロータリーは時代の流れとともに変化しなければなりません。経済界の不況が続く今日、ロータリーには「癒しの心」が必要であると考えます。

皆さんが、それぞれの職場で、懸命に職業奉仕をして、心身が疲労した状態でロータリー例会に出席され、「おはよう」と笑顔で迎えてくれる仲間に出会い、また親しい友と握手をし語り合うとき、すべてを忘れ、人間としての幸せを感じられることでしょう。

その時、ロータリーは私たちを「癒し」てくれています。

Refreshされて再び活力が戻り、地域社会に更には国際社会に奉仕することによって、他人の心を『癒す』ことが出来ます。

ここに『癒し』のshareが生まれてきます。『癒し』を共有し、分与、分かち合うこととなります。

新しい年度には『癒し』の心が求められます。



私は、2月17日から24日まで、米国カリフォルニア州アナハイムでの国際協議会に参加致しました。
キング R.I. 会長エレクトは2001年～02年度国際ロータリーのテーマを感動的に

Mankind is our business

- 人類が私たちの仕事 -

と発表されました。解ったような解りにくいテーマだと私は思いましたが、
さらにキングR.I.会長エレクトは前年度のテーマを引用して

Create awareness and Take action

BECAUSE

Mankind is our business

- 意識を喚起して 進んで行動を

なぜならば

人類が私たちの仕事 -

と繰り返し言われました。私もその通りであると思います。

そして4つの目標に挑戦するよう要請されました。

- 1) 会員増強・退会防止・拡大
- 2) ロータリー教育
- 3) ロータリーの公共的イメージの高揚
- 4) ロータリークラブの強化拡大 です。

国際ロータリーの方針をクラブが自主性をもってどのように行動すべきかをお考え願います。このことが開かれたロータリーであり、ロータリーのあるべき姿と思います。

私は地区として、

The theme of Rotary International,

“ Quality of Life through Rotary, ”

Put it into action

With a healing mind.

国際ロータリーテーマに向かって

- ロータリーを通じて人生の充実

で実践を そして

癒しの心で -

皆さんと共に歩みたいと存じます。

これはロータリーの奉仕を通じて生活の質の向上を図ります。生活の質とは「良い環境」であり、「教育の向上」であり、「社会へのもろもろの貢献」であります。

私ども地区は、クラブの高い理想へのロータリー活動にお手伝いさせていただきます。

クラブと地区はともに地域社会が、国際社会が、なにを求めているかを模索して、奉仕の実践に努めましょう。

直前ガバナーに御礼

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎

R.I.テーマ、意識を喚起し、進んで行動を基に、ガバナーの大役を成功裡に歩まれました、山崎直前ガバナーに心よりお慶び申し上げます。

「遭遇 命有り」と、己に与えられた「機」として「善意志を喚起し - 善意志を行動」を掲げられ、ともすれば澁みがちな善意識を喚起し、行動を促されましたことは、2650地区の隅々まで、私達の意識に、心に浸透されたことと思います。

温厚、誠実なお人柄のなかに、豊かなお心と確固たるロータリー精神、それは力強い行動と情熱となり、我々をご指導して下さいました。

2650地区の、永遠の歴史に燦然と光り輝くものだと確信します。

ご苦労さまでした。

「意識を喚起し、進んで行動を」今年度のR.I.テーマ「人類が私たちの仕事」と継いでいければと思っています。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、直前ガバナー事務所のスタッフの皆さま、何かとお世話を戴き感謝しております。有難うございました。



R.I.会長メッセージ：人類が私たちの仕事です

国際ロータリー2001～2002年度
会長

リチャードD.キング



共に奉仕する同僚の皆さん

ロータリーのお陰で私たちがより良い人間に育てられたことは、大方の人々の認めるところでしょう。私たちの人生においてももしロータリーがなかったら、私たちはこれほどまでに自分を他に捧げることなどしなかったはずですが。また奉仕を運び届けるロータリーの組織化された制度がなかったら、他人を助けようとする私たちの努力も、おそらくそれほど多くの人々に及ばず、かくも遠く地球の果てまで伸びてゆくこともなかったでしょう。ロータリーは私の人生に授かった贈物でした - それは私が他の人々と分かち合いたいと望んでいる善行の機縁、またあなた方にも同じ様に分かち合ってもらいたいと思うこの機縁、という贈物です。

ヴィクトリア朝時代の文学に通じているロータリアンなら、この 2001～02年度のテーマがチャールズ・ディッケンズの人気物語クリスマス・キャロルから引用したものだとお気づきでしょう。これは人生訓的なお話ですが、冷酷非情な事業家エベネザ・スクルージの所へ死んだ昔の相棒ジェコブ・マーレイが幽霊になって出て来ます。そのマーレイはあの世へ行ってから、生前思い遣りの無い振舞いをして来たことを後悔し、ずっとその苦しみにさいなまれているのでした。それを見てスクルージは、「だってお前さんは何時でも立派な仕事師だったじゃないか」と慰めの言葉をかけます。すると悲嘆にかきくれた幽霊は、がっくり首を落として、「仕事だって！人類が私の仕事だったんだ。社会の安寧こそ私の仕事だった；博愛、憐愍、寛容、慈善、このすべてが私のなすべき仕事だったのに……」と泣き叫ぶのでした。

ロータリアンたるもの誰でも、人道的な働きをせずに生涯を送ったことを後悔しながら、人生を終えることが無い様に致しましょう。ロータリーの道を貫き、他人に奉仕し、成長と繁栄に力を尽くす、ということによってこそすべてのロータリアンは、人類が私たちの仕事、というこの力強い誓約を公言して果たすことが出来るのです。

2000-2001年度 国際ロータリー会長エレクト
1996-2000年度 ロータリー財団管理委員会委員
1989-1991年度 国際ロータリー理事
1990-1991年度 国際ロータリー執行委員会委員長

1968年以来ロータリアンであるキング氏は、米国カリフォルニア州ナイルズ(フレモント)・ロータリー・クラブの会員です。氏は、ロータリー財団の管理委員会委員、国際ロータリー理事会執行委員会委員長、クラブ会長、地区ガバナー、国際協議会討論リーダー、公式R.I.会長代理を歴任しました。キング氏は、財団の国際人道的プログラムと教育プログラムへの貢献が認められ、ロータリー財団功労賞および特別功労賞を受賞しました。またポリオの撲滅という目標のための優れた奉仕により、ポリオ・プラス・パイオニア賞を授与されています。

- 8月は会員増強月間 -

会員ひとりひとりが「新会員ひとり推薦」を目指して

地区会員増強委員会 委員長 **大久保 昇**
(京都西南R.C.)



1：61億人と21億人

この二つの数字のうち、「61億人」は2001年4月における地球総人口です。国連の調査によると、1990年の総人口は50億人（うち先進国人口は13億人）でしたから、この10年間に11億人、1分間に換算すると200人の増加ということになります。この間の先進国人口はほぼ横ばいだったので、11億人は主として開発途上国の増加数ということになります。

この世界人口の増加が世界的な需要と供給のバランスを崩す要因となり、さらに加速化されて、社会・産業の構造の変動をもたらし、経済問題に影響をあたえてきました。

もうひとつの「21億人」は、この地球上に暮らしている18歳未満の子どもの数です。そしてその90%以上が、開発途上国と呼ばれる国で暮らしています。途上国の子ども人口の増加が、地球総人口の増加をもたらしたことがうかがえます。

出生率低下にともなう人口減傾向がみられる先進諸国では、想像しにくいですが、この開発途上国を中心にした著しい人口増加、とくに子ども人口の増加は、飢餓・食糧問題や健康問題、教育（非識字）問題、さらに地域紛争や地球環境問題を引き起こしています。

これらの社会・産業構造の変動、途上国の人道的問題等に対応して、新しいビジネスが生まれ問題を解決するためのNGO（非政府組織）やNPO（特定非営利活動法人）等が組織・活動を拡大しています。

2：ロータリーの使命実現と会員増強活動

世界の理解と平和。ロータリーは創立以来、この使命実現のための活動を、地域への奉仕からはじめて世界貢献へという道筋にそって、各クラブ・地区・R.I.ともども実績（早くから行ってきた途上国への人道的分野や教育的分野での援助もその一例）を積みかさねてきていることはご承知の通りです。

その実績と歴史をロータリアンは自覚し、誇りにもし、これがロータリーの世界的ブランドです。

日本の場合、一般市民（非会員）のロータリーへの理解は、ロータリアンの思いほどではなく、意外と薄いのではないのでしょうか。毎年、会員増強月間を中心に増強活動に取り組んできたわりに、その実りが少なかったのも、このロータリーブランドの浸透度不足が理由の一つと考えられます。

加えて、会員の高齢化にともなう自然退会が目立ち、これがロータリー活動の低下につながることもなりかねません。経験豊かな高齢会員の地力を発揮していただき、それとともに会員構成年齢のバランスを図ることが必要でしょう。

市民・社会へのロータリーへの理解をえるための、さらなる努力が必要です。あらゆる機会をとらえて、ロータリーへの入会をすすめていただきたいと思います。

クラブ会員数を増やすことは、ロータリーの活動を活性化し、使命実現の力になるはずで、ひいては、ロータリーブランドの向上にもつながります。

3：「新会員ひとり推薦」をあなたの目標に

2005年の「創立100周年会員150万人達成」を目標とするR.I.に協力して当地区でも8月の会員増強月間を機に、他の委員会と連携し、社会・産業の変化に対応できる、きめ細かな増強活動に取り組みます。

会員ひとりひとりが「新会員ひとり推薦」。これが今年度当地区の増強目標です。

増強活動の参考資料として、地区では、各クラブの調査をもとにした、ニュービジネスや女性団体等を加えた新「職業分類表」の作成を考えています。各クラブのご協力をお願いします。なお、「会員増強および新会員推薦についてのご案内」の印刷物と、ストーリー漫画「ロータリーの心を あなたも・入会のお誘い」を準備しました。会員増強活動の援軍になるはずで、ご活用ください。

地区提唱 - 8月は退会防止月間 -

退会防止は各々一人一人の意志で決まります

地区退会防止委員会 委員長 **平井 義久**
(京都洛中R.C.)



1905年に創立された国際ロータリーも、後3年で100年を迎えようとしています。

この100年は世界大恐慌ではじまり、2回の世界大戦、そして東西の冷戦、その壁も10年前に取り除かれ、ようやく平和が訪れたと思ったら、いまだに地球のあらゆるところで宗教戦争、民族紛争等、無駄な戦いが繰り返されています。

国際ロータリーの歴史は、地球上での悲惨な出来事の荒波にもまれながら、ポール・ハリスら4人から今や120万人の仲間がこの地球上に呼応し、世界では屈指の団体に力強く大きく成長してきました。この100年間、国際平和のための奉仕活動や、同じ人類として飢餓、病魔に苦しんでいる人たちを支援し、そして自分達が住む地域のあらゆる社会問題に、積極的に取り組み続けてきました。

このように素晴らしい活躍をしている国際ロータリーの一員として、仲間入りした人達が、ここ数年前ぐらいから少しずつ減少傾向が顕著になってきました。

なぜ、退会されるか。理由は各々お持ちであります。現在、世界はもちろん、日本は経済不況の真っ只中にあります。いまそれどころではないという企業環境の方、ご逝去になった方等、どうすることも出来ない退会者はともかく、只なんとなくおもしろくないから、仲間との折り合いが悪いからの理由で、退会しておられる方はおられないでしょうか。前述しましたように、私達には、世界の多くの仲間と手に手つないで、仲間と信頼関係のもとに、親睦を深め友情の輪を広げながら、世界的な地球規模から、小さな私達の町への奉仕の機会をあたえられている、大きな使命があることを忘れておられるのではないのでしょうか。いや、そんなことは無いはずであります。

入会される時に、ロータリー情報委員会による指導や推薦者の協力で、仲間に溶け込み楽しいミーティングに参加したり、今までお付き合いが無かった業種の人たちや、その人柄に触れるという大きな特典の恩恵にも浴されておられます。折角の、この環境から離れられることは、退会される方にとって大きな損失であります。お互いが悩みを、胸襟を開いて相談できる相手が会員におられます。

このように退会防止委員会を設置しなければならない程、国際ロータリーが大きな曲がり角に来ていることと思います。私は退会防止という言葉に大変抵抗があります。みんな同じ志をもって入会した筈であり、どうしてもという人以外は、退会される人はおられないと信じています。

「退会防止は各々一人一人の意思で決まります。」

「いつまでも心の通い合う、仲間であり続けましょう。」

「地球上のあらゆる人たちが、あなたを必要としています。」

「いつの日か、必ずやめなくて良かったと思う日がきっと来ます。」

「やめないで下さい。」

- 8月は拡大月間 -

21世紀の夢は見えるでしょうか

地区拡大委員会 委員長 **吾郷 光夫**
(生駒RC)



田舎の母の言った言葉は「本気になったら、お前は何でも出来る子なんだ。」それはロータリーに通用しなかった。20世紀の1999年、大阪弁でドンジリの年と言うし、2000年はドベタの年と申します。

「今は時代が悪いから仕方がない」と片付ける人、「あまり気ばんなさんな」と言う人もある。可能性が低いことに挑戦する人、「やるか、やらないか」、ビジネスにおける決断が基本的にはこの二者択一である。「仕事の出来る人、仕事の出来ない人」堀場雅夫パストガバナー著(31頁～40頁)。やらなかったら、どこがやるという自負と気概である夢と、可能性の低い物“拡大”に挑戦、“拡大は勇気と希望がなければ勤まらない。私は希望とは何ぞや考えたとき、それは生き甲斐であり、それが無ければ希望もありません。それがあってこそ、明日の我々があります。今年の拡大委員会の皆さまに、私の考え方である生活信条を訴えて協力をお願いし、積極的に邁進する考えであります。

旗ざし物は「泣くよか飛べ。」川の前で泣く子供に飛び越える勇気を持つように促す。難しいが難しさを越えるため川を飛ばなければなりませんとアドバルーンをあげました。今般の政府、小泉内閣ではありませんが「構造改革なくして景気回復なし」同様、今のロータリーの地区拡大は、銀行がつぶれるほど企業を取り巻く経済環境の厳しい時代に、従来のまま“拡大”を持ってきても出来ません。

今年はどうしても、第2650地区内の各府県に一つ、主要の街に朝のクラブを作りたい。出来れば土曜日が欲しい(奉仕活動が少し出来る時間が作れるから)。バブル前は、土曜日の昼のクラブが多くあった。バブル期間はそんなに働かなくても会社は景気がいい。そんな時に土曜日まで働く会社は必要がない。

会社へ出勤する時間を計算し、朝8時30分例会の点鐘から始まる。会員数は40人前後で顔と名前が一致する人数かと思う。小回りのきく会員数を考える。今まで種々の事情で退会された元会員に、新しいクラブに復帰して頂き、また、新クラブを作ることにより、今までロータリーの恩恵に浴することの出来なかった若人が、ロータリーの空白を埋めることに期待したい。新しいロータリークラブは親睦を基調とした、スマートで格調高いクラブ作りをモットーにしたい。若いロータリアンには、会社の経営にも力を入れて両立する。ロータリーで奉仕する会員になることを念じて、ロータリーに加入して欲しい。ロータリーは苦しいものではなく、友情に支えられ、楽しむものだと思える先輩もいらっしゃる。

退会者を防止する委員会が今年生まれる。「増強」と「拡大」と「退会防止」の三姉妹が生まれたのは、朝のクラブを肯定している時代だと信じて推し進めたい。

私達の業界も、ご多分にもれず全国的に子供の出生数が激減している。厚生労働省はこういう見方をしている。不況による所得税減少、リストラで人減らし、日本の老舗は全て会社が倒産する。以上の3つの不安等から女性の出産を伸ばす。夫婦で相談して結婚しても、しばらく子供を作ることを見合わせる。子供の誕生は少なくとも今のところ2年遅れている。女性の初出産は30歳に伸びてしまった。早く対策を考えなければと思う。政治、経済、家庭、生活の沈滞しているものに対し、攻めを考えてみる必要がある。こんな時代にどう攻めるか、拡大も同じことである。勇気と気迫と知恵が今いる。田舎の母じゃないが、本気になって考えて頂きたい。皆様のご理解の上、大きな協力があって拡大「1」が誕生します。一緒になって考えて頂けませんか。

—新たなるメッセージ—

21世紀の夢をベースに

地区規定審議委員会 委員長 山室義郎
(舞鶴RC)



ロータリアンの中には、定款、細則とか手続要覧という話になりますと、拒絶反応を示す人が少なくありませんが、どうか難しく考えないで下さい。

国や民族を超えて、世界530地区のロータリアンが、共にエンジョイすることができるのは、共通のルールがあるからだ、と言えるのではないのでしょうか。

時代の変化、その時代にふさわしい規則の見直しの必要性から、3年に1度の、R.I.の規定審議会が開催され、ロータリーが「21世紀の夢」をベースにした、ロータリアン皆が尊重するような、そして将来への新しい方向をつくり出すための規則に、改定されることを期待しているのです。

案件すべてに関する報告書が送付されてきましたら、7月1日から発効となります。各クラブでも解釈検討していただき、また当委員会としましても、本地区に適切であるかどうか諮問委員の方々にご指導いただいで、精査検討していく必要があると考えます。

明確化された資料として発刊されます「手続要覧」は、ロータリーの手続規定についての基本的文書であり、あらゆる事項について権威ある資料源と言えます。

ロータリー活動の中で、疑問をもち判断に迷う事柄等があれば、良き参考書となります。まずは読んで下さい。利用して下さい。ロータリーが身近なものになります。そこから西村ガバナーの提唱されています「癒しの心」が生まれてくるのではないのでしょうか。

公共的イメージの高揚

地区広報・雑誌委員会 委員長 伊藤哲雄
(京都洛西RC)



ロータリーの「広報」の原語は“Public Relations”です。

これは1923年の決議23-34に、「ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に、宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については、正しい広報が行われるべきである。」と定められたものが原点になっています。

ロータリーの広報は宣伝活動ではなく、一般社会との関係を広げ深めることが目的であるという、基本概念を再確認し、ロータリーの奉仕活動を正しく伝え、正しく認識してもらうために、どうすれば有効に広報活動ができるかという観点で、クラブレベルの広報活

動を支援させていただくことを、地区広報・雑誌委員会の活動の柱にしたいと考えています。キング R.I. 会長はテーマの一つに「公共的イメージの高揚」をあげておりますが、このことは、ロータリーを一般の人々に正しく理解していただくことに通じるものと考えます。さらに会員減少の危機が叫ばれる今日、ロータリーの奉仕活動を広報することによって、ロータリーの存在をアピールし、人々に少しでもロータリーに関心を持っていただくことで、結果的に会員の増強につながるという役目を果たすことが広報に期待されています。

「ロータリーの友」は国際ロータリー会長とロータリアンを直接結ぶ情報誌として、日本の公式地域雑誌に認定されています。「ロータリーの友」はロータリーが何であるかを知ることが出来る情報を満載した公式地域雑誌です。是非ともご愛読ください。

クラブの更なる前進を

地区ロータリー情報委員会 委員長 山中欣治
(大和郡山RC)



ロータリーの奉仕について、全会員の知識と理解と責任感を涵養し、クラブや委員会、個人としての奉仕活動がロータリーの綱領に則り、目標にかなった計画の下に実施されるべく情報を提供します。ロータリー情報あふれる、楽しさと友愛で満ち満ちたクラブとなるように、情報提供していきます。

2650地区内、91RCのロータリー情報委員長協議会を、創立順、地域分散型にわけて開催し、委員長全員から、日頃の活動状況やご意見を戴き、地区内情報委員会活動の普遍化と、相互の情報交換を行って、ロータリー情報委員会の責務別に、各委員長の発言要旨を報告し、各クラブの、今後の活動に役立てます。

今日、私たちのロータリーは、さまざまな意味で、組織が疲労しつつある感じがいたします。R.I.規定審議会においても、大変革の予兆あるやに伝えられていることは、公知の通りです。西村二郎ガバナーの方針でありますところの「癒しの心」をもって、活動をしなければなりません。地区では、退会防止委員会が新しく発足されました。各クラブでは趣味の委員会や、多数の同好会の開設に努め、已に退会防止の一策としておられます。

西村二郎ガバナーの方針のもとに、諮問委員会津田佐兵衛バスターガバナーのご指導を得て正しい適確な、そして新しいロータリー情報を提供し、本地区の名声をさらに高め、楽しいロータリーの活動と、地区内総てのクラブの、更なる前進を希うものであります。

—新たななるメッセージ—

相手の満足を求めて

地区職業奉仕委員会 委員長 黒川正夫
(京都西南RC)



21世紀最初のロータリー年度を迎えましたが、経済情勢は低迷を続けており、なかなか曙光が見えてきません。しかし、これまで物の豊かさを求め、大量生産・大量消費、効率を煽り経済第一主義で進んできましたが、幸い自然の摂理は、我々に立ち止まり内省を促すが如く、今のような経済の静謐をもたらしたのではないかと思われま

す。このときロータリーとその職業奉仕部門の使命は、これまで以上に重要性を増し、責任も重くなってきたと感じます。

キングR.I.会長の示されたテーマ“Mankind is Our Business”は、まさにロータリーの金看板である、職業奉仕そのものに対する心構えへのエールと受けとめます。

社会は、まちがいなくロータリーの職業奉仕の理念(相手の満足)を必要としている時代にあり、このような時に、職業奉仕部門の世話役をさせていただき巡り合せを、絶好の奉仕機会と甘受し、微力なりにお役に立つような努力をしたいとねがっています。

地区委員会の方針は 職業奉仕理念の涵養、職業奉仕部門リーダーの自己啓発と情報交流、職業奉仕のための規範・声明・宣言の活用アピール等をあげております。

最も身近な奉仕活動 - 職業奉仕に、ご精進下さるよう祈念いたします。

身銭を切って汗を流そう

地区社会奉仕委員会 委員長 中田全一
(近江八幡RC)



新世紀の扉が開いたとは言うものの、世情は経済不況脱出への方策もなく、金融のビッグバンに始まるグローバルスタンダードへの対応も、不良債権処理や、株価の低迷等で先行き不安感を払拭しきれず、また、青少年の思慮分別なき犯罪等々社会情勢は、羅針盤を失った航海の様(さま)であります。一方、高齢・少子社会は稀にみる速さで進行の度を高め、対策が後手後手になっているきらいがあります。青少年問題や、

高齢・少子社会への対応は、地域の連帯、地域で支え合う心が問い直されていることでもあります。即ち「地域コミュニティの再構築」であり、諸問題解決には絶対不可欠であります。

超私の奉仕を掲げてその実践に努めていますが、今一度、地域のニーズを問い直し、地域における役割を再点検しなくてはと思います。

21世紀は、環境の世紀であります。自然界に生かされている心の復活であり、自然の恵みを享受することへの感謝の心と、保全への大胆なる挑戦であります。物から心へ、成長から成熟へ、確かな人間性への回帰であります。

現在(いま)、地域づくり、まちづくりは住民主導で行う時代となりました。「身銭(みぜに)を切って汗を流そう」の心で、地域コミュニティの再構築(社会奉仕活動)の実をあげたく思います。

環境保全活動への啓蒙

地区環境保全委員会 委員長 城守勇治
(京都RC)



地球規模の環境保全では、経済大国のアメリカが気候変動枠組条約締約国会議(COP6)のメンバーから脱退したことによる影響が懸念され、国内では家電リサイクル法が4月1日より実施され、消費者は家電製品の廃棄に関して、応分の負担をすることになったが、是非共、家電の粗大ゴミは減少して欲しいものです。

当地区内の91クラブでは、環境保全活動に関して、資源リサイクル、省エネルギー対策、環境美化、自然保護、緑化運動等々、様々な環境保全活動やその啓蒙に、クラブ単位で地道な御努力をいただいております。

昨年度では地区内での環境保全アンケート調査を基本として、IM単位での環境保全会議から有意義な意見交換が行えました。

今年度は、各々クラブでの継承事業、新規事業に関する実績、及び達成率を御報告いただき、地区内クラブでの情報交換を実行いたしたく思っております。IM単位のブロック会議におきましては、その実施にあたり、メンバー皆様の御協力をお願いします。

地区環境保全委員会では国際ロータリー(R.I.)が発信する情報・PRについても、地区内クラブに出来る限り、御案内させていただき予定です。

今年度も、環境保全活動へのお取組みをよろしくお願ひします。

—新たなるメッセージ—

世界のロータリアンと友情を 深め合おう

地区国際交流委員会 委員長 田中文夫
(福井南RC)



国際奉仕は、国際交流委員会、国際青少年交換委員会、及びGSE、そして世界社会奉仕委員会、インターネット委員会とありますが、国際青少年交換委員会は、学生の男女の1年間の交換を行う、またGSE委員会は、ロータリーの会員でない人、会社に勤務して専門職を、そして他国の会社に訪問して研修する中堅社員の交換をする、そして仕事を身につけ交流をすることは、すでに皆様がごぞんじのことと思います。

我が国際交流委員会は、ロータリアンが家族同伴で、他の国のロータリアンの家に数日間滞在します。もうひとつは、2002年の春に、アメリカのペンシルバニアに於て、日本のロータリアン5組、10人の夫婦が、ロータリアンの家庭に1週間くらい滞在し、友情を深め合う、そして国際理解および親善を促進することにあります。また訪問する前に、ペンシルバニアから1週間くらい、当地区に来ていただき、ロータリアンの家庭に滞在してもらいます。

2650地区から少しでも多く世界大会に参加されるようお願いをする。2004年には、大阪で世界大会が開かれることをふまえ、少し早めであるがPRをしていきたい。また地区内の国際交流の相手国や年数、問題点など調査してみたいと思っています。

新世紀を支えていく若者達に

地区国際青少年交換委員会 委員長 松山 隆
(奈良RC)



21世紀の幕開けと同時に、パソコンとインターネットの普及につれて、世の中は益々グローバル化に向けて、歯止めが掛からなくなってきました。音楽、ファッション、食生活、生活環境など、若者の国際化には眼を見張るものがあります。

しかし、それぞれの国には、守らねばならない文化や習慣、伝えねばならない歴史や言葉があります。地域、地方の再認識も、我々人類にとって、今後益々重要な課題であることは間違いありません。15歳から18歳の若者を対象にした、この青少年交換プログラムは、

まさに21世紀を支えていってくれるだろう、諸君の大切なロータリープログラムなのです。

人生で、最も多感なそして吸収力のある年頃に、一人で海外の生活を経験し、文化、歴史、習慣、言葉の違いを克服、また吸収し、一廻りも二廻りも大きな人間に成長して帰ってきて、それぞれの国の、社会に還元してくれる若者を見ると、このプログラムに参加していることの喜びを感じざるを得ません。

このプログラムの素晴らしいところは、一から十まで、すべてロータリアンの手作りだということです。他国との折衝、交換学生の研修、ホスト、学生のカウンセラー、ビザ・航空券の手配等、すべての手続きをロータリアンが行います。この夏も、当地区から12ヶ国に、20数名の若者を派遣し、また、同数の海外の若者が2650地区に来ます。ご協力をお願い申し上げます。

国際間の理解と友情

地区G.S.E委員会 委員長 佐野貞夫
(京都八幡RC)



全世界のロータリアンの善意と有情に支えられ、GSE教育プログラムが19回を迎えることになりました。国際協議会に於て、西村ガバナーは相手国、第6910地区ジョージア州KAY MILLERガバナーとの間で合意に達しました。

目的は、文化、職業、生活様式を学び国際間の理解と友好の増進を図ることにあります。

委員会は受け入れチームと交換の詳細、諸活動とホストクラブ、ファミリーについて事前計画に十分な検討を要します。受け入れホスト5クラブの中に、GSE小委員会を設置、一週間単位の研修日程、専門職務にあった職業研修日、完全な自由休養日の作成をします。来日チームメンバーにとって、もっとも必要とすることは、あらゆることから訪問期間中に、これまでの旅行を評価し、英気を養える機会に恵まれるように、休養日を必要とすることです。相手の立場になってホストするプログラムを、今年度は実行します。

地区内の事業所の経営者と、会う手はずを整え、参加者だけでなく、雇主にもプラスになり、長期的観点から、役立つ説明が必要となります。

GSEパンフレット、月信、ホームページを通じて、ロータリアン、地区内全クラブの広範囲に広報をして、有望な候補者を探す援助を要請いたします。

—新たなるメッセージ—

子供たちの笑顔に出会うために

地区世界社会奉仕委員会 委員長 松原六郎
(福井フェニックスRC)



世界社会奉仕ミッションに参加して帰国すると、元気になっている自分に気付くのです。そして、その元気のもと、現地の子供たちの、あの「笑顔」のおかげらしいのです。子供たちの笑顔に出会っているうちに、こちらが元気になるのでしょうか。今度行ったとき、子供たちが、「サンキュー」って言ってくれたら、倍くらい「サンキュー」の言葉を返そうと思います。

地区世界社会奉仕委員会は、各クラブの世界社会奉仕活動の支援をします。地区の活動として、次年度はマンマーへ行行って、子供たちの笑顔をもってこようと計画しています。時期として、2002年1月中旬から2月くらいにねらいを定めています。ポリオワクチン投与支援と、できたら子供たちに、小さなこぎれいな校舎のプレゼントをと思っています。

お一人で参加される方、奥さん孝行にとご夫婦で参加される方、子供にボランティアの経験をと、子供連れの方、過去にその地で戦ったという、特別の思いをお持ちの方もおられます。それぞれが、それぞれの思いを胸に、参加されるミッションになると思います。

ポリオワクチン投与は、2滴のワクチン液を、子供たちの口の中に落とす作業です。私は何回となく、この作業をしてきました。こんなに素晴らしい作業は他にありません。ぜひ、ご自分でも試していただきたいと思います。そして、たとえ、ご参加いただけなくても、6000人全ての地区メンバーの方お一人お一人に、「参加しているんだ。」「投与しているんだ。」と感じていただけるようにならないかと、思索を練っているところです。

ロータリーのイメージを高めよう

地区インターネット委員会 委員長 志村 修
(大津東RC)



本年度リチャード・キング R.I. 会長は、方針の中で「公共的イメージの高揚」をあげられ、クラブに対して、その功績を世に輝かすためにウェブサイトを開設するように要請され、インターネットを通じて、クラブや地区の活動の広報をするようにと、おっしゃっております。今後ますます、インターネットの活用的重要性が増してくることは間違いありません。

「この委員会は、ロータリーのイメージを高め、ロー

タリーの綱領を推進するための方策として、R.I. が押し進めるインターネットの普及促進をはかるために、必要な事項をガバナーに提言し、その承認を得て、電子メールの普及促進に関する研究および活動、公式ホームページ公開・維持更新に関する研究および活動、インターネットに関する地区委員会・クラブへの啓蒙活動、地区およびクラブ事務局のIT化に関する研究および支援活動、その他、目的達成のために必要な活動を行う。」ことです。

上記の目的を達成するために、R.I.や地区からの最新情報を、いち早くクラブやロータリアンに伝えるため、地区ホームページ上で情報発信するとともに、クラブのIT化支援のため、積極的に取り組む所存です。みなさまにおかれましては、地区の公式ホームページ<http://rid2650.gr.jp/>を、十分に活用いただきますように、宜しくお願いいたします。

学んで考えて行動を

地区青少年委員会 委員長 森定秀夫
(京都西北RC)



6年前に「青少年への奉仕」は「新世代のためのロータリープログラム」に変わりました。手続要覧第8章は「新世代のためのロータリープログラム」であります。この基本的ニーズとは、「健康、人間の価値、教育、自己開発」とあります。若い人が社会に役立つ、立派な大人に育ててほしいということが目標です。ロータリーの綱領の中に、ロータリアンは道徳、倫理観を高めなければならないとあります。若い人たちが道徳、倫理観をしっかりと持って、よりよい社会を築くために貢献できる人材を作ることが、青少年委員会の目的です。

7月の第1回青少年委員長会議で、「新世代のための会議」の開催の意義と「9月の新世代のための月間」を、1月の第2回会議の時には、「ライラ」の募集要項と「ライラ」の目的と方針を説明する予定です。

「新世代のための会議」は、地区の全クラブで開催していただき、報告書をガバナー事務所に提出してください。「9月の新世代のための月間」中は、「各ロータリアンは青少年の模範」のスローガンパネルを例会場に提示し、週報にも毎週記載していただきたく願います。第22回の地区合同RYLAを、来年5月17日、18日、19日に開催する予定です。

今年度方針は、受講生自身で、学んで、考えて、行動できるプログラムを企画していきたく思っています。野外活動(ボランティアを含む) - 自分の課題を見つける能力を養う - と、講演(従来より減らす) また若い人に対して礼儀や道徳心の向上をめざしていきます。

—新たなるメッセージ—

21世紀を託す指導者育成を

地区ローターアクト委員会 委員長 長崎一幸
(舞鶴東RC)



2650地区は、37ローターアクトクラブ、会員数約640名、国内最大のクラブ数と会員数を有しています。

我々ロータリアンは、次代のリーダーを育てるため、そして将来のロータリアンへの期待もこめ、直接または間接的に指導し助言し育成しなければ成りません。

委員会として、安定したアクトクラブ、またアクターが社会的ニーズに取組み、積極的に奉仕活動が出来るような充実したアクトクラブにご指導頂くよう、提唱いただいているロータリークラブに、より一層のご理解とご尽力を頂くことです。そして未提唱のロータリークラブに、是非アクトクラブの活動を実感して頂き(未提唱クラブであってもアクトクラブへのメイクアップが認められております。メイクアップの必要が生じた時には、ローターアクトクラブの例会に行ってください)ご提唱頂くよう働きかけていきたいと思っております。そのためにも、提唱ロータリークラブのアクト委員長、未提唱ローターアクトクラブの青少年委員長の皆様に、アクト活動の現状(地区ロータリーアクト年間行事報告、各提唱クラブにおける問題点、他クラブの現状等)の意見交換を通じて、各ロータリークラブでのより一層ローターアクトの育成を頂くことです。

未提唱クラブには、提唱して頂くための委員長会議を開催致しております。21世紀を託す指導者育成、それがローターアクトクラブが設立された所以です。地区ローターアクト委員会は、地区内91ロータリークラブに、ローターアクトクラブの育成とご理解を広めていくこと、そしてアクト活動の充実を図ることを活動の指針としております。

若い人と共に行動を

地区インターアクト委員会 委員長 雀部俊彦
(福知山西南RC)



ロータリークラブと共に、地域社会に対する奉仕と国際理解を目標に掲げ、それらの活動する機会を、高校生に与えるために、学校単位に結成、提唱されるのがインターアクトクラブです。

インターアクトの活動プログラムを運営するに際し、提唱クラブ、学校、地区委員会三者の協力が必要不可欠です。そのために、お互いの意志疎通をより計るために、アンケート調査を5月に行いました。

その結果をもとに、次年度インターアクト委員長、顧問の先生との協議会で話し合い、インターアクトの

活動が更に活発になり、効率よく行えるよう、またロータリアンの、今まで以上の青少年活動に対する理解と協力、支援をお願いしたいと考えています。

最も満足のいく青少年奉仕活動は、若い人と共に行動することです。

ロータリークラブが、地域の青少年の育成に寄与できる最も効果的な方法の一つがインターアクトを提唱することです。

阪神淡路大震災を契機に、ボランティア活動に対する関心が急速に高まり、府県の教育委員会も、このような奉仕活動を各学校に推奨しています。教師のロータリーに対する見方も、以前とは全く変わって来ています。

当委員会の全員が、今年度は拡大担当委員として活動していきます。

ロータリアン候補を

地区財団奨学金・財団学友委員会 委員長 中野種樹
(京都西山RC)



財団奨学金・財団学友委員会の役割は、そのDDFを使った、各種奨学金プログラムに参加するため、それらプログラムの広報はもちろん、奨学生派遣のための募集、選考、オリエンテーション、交換学生の受け入れ、学友会の組織化等があげられます。今年、新たに創設された世界平和奨学金については、当地区はロータリーセンターパイオニア地区でもあり、積極的に取り組む予定です。

国際親善プログラムは、1952年、当地区より3名の奨学生を派遣したのが始まりで、来年2002年は、ちょうど50年という節目の年になります。奨学生派遣50周年を記念し、学友によるチャリティーコンサートのような記念行事を、今年度下期に行う計画です。このような機会に、各スポンサークラブが、過去に派遣した消息不明の学友との連絡をとり、ロータリーとの関係を深めていくことが出来ればうれしく思います。その中で一人でも、ロータリアン候補が出てくれば、これほどの成果はないと思います。

財団学友が、財団増強、会員増強に果たす役割は、きわめて大きいと思います。このように、国際親善大使の役割を果たし帰国した、多くの優秀な学友と、ロータリークラブとの関係強化をサポートすることが、従来からの大きな課題であり、今後とも私どもの委員会の評価にもつながるものと思います。また、今年度は、財団増進委員会と合同の委員会を開催し、寄付を集める側と使う側の委員会が、お互い連携を図っていく予定です。

—新たなるメッセージ—

私にとってロータリーとは友情・奉仕です

ロータリー財団なくしてロータリーはない

地区財団増進委員会 委員長 公文俊一

(京都北東RC)



世界の理解と平和という、ロータリーの夢を追い続けるために、

年次寄付は1人当り年間150ドル、かつ「11月財団月間の特別寄付(会員1人当り30ドル)」を目標にご協力をお願いします。

恒久基金はAベネファクター一括払い(1,000ドル)Bベネファクター協力会2001~2002(1万円コース)を推進します。

クリスタル賞は、年次寄付と恒久基金(ベネファクター)の寄付合計が1万ドルですが、今までに集めておられたお金を加えてということで、改めて1万ドルということではありません。

遺贈友の会は、ロータリアン個人または夫妻で、1万ドル以上の遺産の受取人として、ロータリー財団を指名し告げるだけでよいのです。

管理委員会において採択されました新声明は、地域社会援助プログラム(Community Assistance Program = CAP)が発足。ロータリー財団活動資金(DDF)を使い、テリトリーである地域社会に一層溶け込み、地域社会との結び付きを深めることができ、このプログラムを実施していただきますと、ロータリアンにも、ロータリークラブも、地域社会の人々にも、ロータリー財団がより身近になることと思います。

一人の善意が集まって、多くの人たちの善意となり、世界の平和、人類の平和に繋がります。ロータリーの基本理念を常に念頭に置き、財団増進に励みたいと思います。会員の皆様の御協力よろしく申し上げます。

米山2000運動

地区米山奨学委員会 委員長 大島正光

(高島RC)



(財)ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して、日本に在留している外国人留学生に対し、国際理解と親善を深めるために、全日本のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給、援助する民間最大の奨学団体であり、日本のロータリアン国際事業のうち最も誇りとすべき、事業の一つであります。

我が国の留学生受け入れ数は極めて少なく、欧米諸国に比べると約10分の1であって、日本政府の21世紀計画10万人受け入れ計画に対し、米山奨学事業の位置づけと期待は、大変大きく評価されています。

然しながら、最近特別寄付が減少し、そのため1999年度は、奨学資金特別積立金の取崩しを行っており、寄付制度の見直し、奨学事業の計画等の検討が行われています。

2650地区では、1999年度総額では、130,384千円で全国1位ですが、1人当りの寄付額は、20,812円と全国5位にランクされています。当地区として、本年度実施方針として、特別寄付金の方法を一部変更し、全会員最低月当り2,000円のニコニコを継続積立していただき、米山2000運動を実施したいと考えています。実施協力方法としては7月のクラブ米山委員長会議で、具体的に決定したいと思います。米山奨学事業を通して、人的資産育成に貢献し、国際親善と世界平和に寄与することを願って止みません。

参加しよう

インターシティ・ミーティング第3組・京都南部

テーマ：ロータリー活動での感動的な場面

日時：8月25日(土) 12:00~18:00

会場：京都ホテル

ホストクラブ：亀岡中央RC 会長 渡邊正平

実行委員長：南澤 隆

ゼネラルリーダー：坂部慶夫パストガバナー

参加クラブ：亀岡、亀岡中央、京都、京都伏見、京都東、京都北東、京都市陽、京都桂川、京都北、京都南、京都モーニング、京都紫野、京都中、京都西、京都西山、京都乙訓、京都洛中、京都洛北、京都洛南、京都洛西、京都洛東、京都嵯峨野、京都西北、京都西南、京都紫竹、京都朱雀、京都田辺、京都山科、京都山城、京都八幡、園部、宇治、宇治鳳凰 33R.C.

京都ロータリークラブのこと



京都R C 井筒與兵衛

35歳で入会以来、13年になります。よく退会もせず、亦退会させられなかったことだと思っています。

入会時ととまどいの折りに、同席した年長の方々の心を開いた素直な会話で心和みました。新世代のことが話題になる時のジェネレーション・ギャップについては、歴史的背景と経験の相違があることで、当然のことと思っています。それ以上に、個人の資質によるギャップをより多く感じ、同時に年齢に関係なく、心を共にする方が随分大勢おられます。出来の良くない私の入会を許し、且つその在籍を許容している、京都R.Cの懐の広さと深さと、寛容の精神に大変感謝しています。

問題となる世代間ギャップはないと思っています。上下隔てることなく、オープンな心で話をすることの出来るロータリアンが、構成員となっているクラブだということでしょうし、そのようにさせる雰囲気を持っているということかもしれません。心すべきことがあるとすれば、ロータリーに於ける儀式と本質の乖離です。

提案として思うことは、会長がもっと明らかになる運営です。良い処、そうでないことを含めての、会長の個性が反映する運営を楽しみたいと思います。これは、奇をてらうということではなく、のびのびと会長をエンジョイされることが、より魅力あるクラブ造りの基本になると思うからです。会長の多様性をクラブの喜びとする、より魅力的なクラブとなる気がします。

地区テーマ「明日へ！」



地区ローターアクト代表 高島RAC 山下 康祐

20世紀というのは世界恐慌に見舞われた時代、シカゴの青年弁護士ポールハリスのロータリー設立に始まり、「ロータリー・ロータリアンが築いてきた世紀」といっても過言ではないでしょう。その中で、1968年3月13日の世界で最初に誕生したローターアクトクラブ、米国ノースカロライナ州ノースシャーロット・ローターアクトクラブの設立以来33年間、我々ローターアクターはロータリーの理念である「奉仕の理想」の基、様々な形で「青少年の育成」という奉仕を受けてきました。

21世紀は、我々が中心となり、今まで受けた奉仕を、地域社会や職場また日本から世界に奉仕していきたいと思います。様々なローターアクト活動で学んだこと、その活動により出会った「仲間・友達」と過ごしている時間というのは、何物にも変え難いと思います。

人の成長とは、多くの人と出会い、多くのことを語り合う中で生まれてくるのではないのでしょうか。幸いにも我々ローターアクトには、このようなことが体験できるプロジェクトが数多くあります。

一つのプロジェクトを作る上での重要なこと、それは企画・検討・運営・実行です。この中で多くの“たのしさ”に触れ合えることでしょうか。みんなで同じ方向を見つめて、スタートを切ることの出来る仲間が居るたのしさ。企画を進めていく中で起こる様々な討議。その中で見つけ出した応えに向って一致団結して頑張っている時間。そして実施後の計り知れない充実感。この過程で流した涙、また嬉し涙。人は流した涙の分だけ強くなっていくと思います。成人してしまうと、なかなか涙を流す機会はありません。このような体験の出来るローターアクトの素晴らしい“たのしさ”を再認識し、『アクトを楽しむ！』ことにより、個々の資質とリーダーシップを養っていきたいと思います。

これからの21世紀を作るのは、我々ローターアクトを中心とした世代です。ローターアクトの経験を活かし、より良い地域社会の、またそれぞれの家庭・職場での「明日へ！」。また日本全国をはじめとする世界各地の「明日へ！」。今日という日を精一杯頑張っていきたいと思います。その土台をしっかりと踏み台にして、自分自身の素晴らしい「明日へ！」。



三百五十回の俳句会

名和 佑介（奈良RC）

わがクラブには、青丹俳句会という同好会がある。三十年もつづく俳句会で、毎月欠かさず例会を開いてきたので、本年中に三百五十回を超えることになる。

メンバーはロータリアンとその夫人で、男女およそ半分ずつ、二十名前後がいつも集まる。現在は吹田西クラブの田原憲治氏（ホトトギス同人）を指導者に仰ぎ、常連には他クラブから二名が加わるなど自由な気風がある。

四季折々の風物を求めて、なるべく戸外を吟行するのが、創始者であった緒方氷果先生以来の伝統である。幸いに奈良は、随所に名勝名刹に恵まれているので、吟行先には困らない。

日々の例会は、まことにきびしい互選となるので、披講のときは真剣そのものであるが、その前後は冗談がとび交い、賑やかな笑声が絶えず、折を見て会食することもしばしば。年一回は、二泊三日の旅行をし、各地の歌枕を巡るのが恒例であるが、旅の楽しみとともに句作の苦しみも味わうことになる。しかし、クラブ例会では得られない、親しみを共有できる。俳句会とは、まことに風雅と悦楽を兼ねた集いである。

年末には、青丹句集を発行し、各人の自選句とエッセイを掲載するが、それも第二十九巻目となる。句会の長きをもって尊しとせずではあるが、その水準は、たとえばロータリー俳壇の入選数を見ても、かなりのところにあると自負し、それぞれが句作に励み且つ楽しんでいる。



「洛中グリークラブ」

山本 祐三（京都洛中RC）

京都洛中ロータリークラブには、14の同好会があります。それぞれ趣味を同じくする会員が集い、活発な活動をしています。その中のひとつに、洛中グリークラブがあります。合唱団「洛中グリークラブ」が結成されて13年目をむかえます。毎月3回、仕事を終えて、午後7時30分に練習場に集まります。練習は2時間、なかなか全員が顔をそろえることは有りませんが、お腹の底から声をだし、みんなの声がひとつとなり、心地よいハーモニーがうまれた時の満足感が楽しみでもあります。

ロータリー仲間から励まされ、おだてられ、いろんな機会に舞台を得て発表させていただき、合唱を楽しんでいます。

今年3月には、第3回定期演奏会を京都府民ホール「アルティ」で、会員夫人の女声合唱団「それいゆ」と合同で開催しました。当日のプログラムには、当クラブの内外4シスタークラブに因んだ曲や、災害被災者によせてJ. S. Bach 作曲「主よ、人の望の喜びよ」も披露されました。この演奏会収益金は、インド西部や、三宅島等の災害被災者支援のために、ガバナー事務所を通じて、被災地に送らせていただきました。

5月26日には、第7回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭が別府で開催されます。年一回、全国の合唱愛好ロータリアンが集い、日頃の練習成果を発表します。本年も、全国から17~18のロータリークラブが参加して、合唱を楽しみ、親睦を深めます。





TRTC で健康増進

佐々木忠彦（武生RC）

我がクラブには、ゴルフ、野球そして山歩きの同好会があります。

そのTRTC (Takefu Rotary Trekking Club) は発足して丸三年が経つ。メンバーは原則、会員とその家族としている。現在二十数名が登録されている。会則では会費は年千円で、当日の参加費は実費としている。月1回程度の山行きを実施し、四月から十一月まで活動している。一泊二日の遠征は年一回で、昨年は南アルプスの仙丈ヶ岳、一昨年は白馬岳だった。今年は槍ヶ岳、白山の二回を予定。

参加は遠征を除き予約なし、集合した人で車に分乗して出かけるやり方。いつも女性が参加者の半数近く来てくれる。可憐な野の花を眺め、遠くの山並みを見渡しながら、汗をかいて登った後のおに



ぎりは最高だ。次回のクラブ例会での写真の交換もまた楽しい一時で、登ったこともない会員も次は参加したいと言ってくれる。昨年の100%出席メンバーは三人いたが、その内二人は女性だった。

同じ目的で汗を流した仲間との友情は格別で、例会で会うのも楽しみだ。都合が悪くて山行きに参加出来なかった時は、何か大きな忘れ物をした気持だ。これまでメンバーの山中での事故、急病は一度もなし。先を急がずのんびりと、これからも楽しく登りたいものである。

我がクラブの3つの自慢話

白井 勝好（大津RC）

その1

世の中、どちらを向いてもIT革命の時代、当クラブもIT特別委員会を設置致しました。事前にこの委員会の設置に際し、パソコン教室を開いた場合、受講を希望されますかと、アンケートを取った所、なんと150名中50名強の方から、是非受けたいと回答があり、関心の深さに驚かされました。

幸い会員の中にパソコン教室を開いているメンバーがあり、順調にスタートできました。成果が楽しみです。



その2

何と言っても、風光明媚な我が琵琶湖、その要に位置する、大津クラブの例会場のロビーから眺める雄大な景色は最高であります。

私は、全国の観光地へ旅をしますが、ここはすばらしいと言われる土地へ行っても、あまり感動を覚えません。それと言うのも、いつもこの景色を眺めているからだと思います。一度御覧下さい。皆様方のメーキャップを是非お待ちしております。

その3

どこのクラブも、すばらしい事務局員がおられると思いますが、当クラブは、特に美人で（少し昔は？）聡明な女性が2名おり、この局員のお陰で、クラブの運営がきちりされていると言って過言ではありません。会員全員の自慢であります。

派遣団員募集要綱

研究グループ交換 (Group Study Exchange : G.S.E.)

1. 派遣の概要

派遣地区：R.I.第6910地区ジョージア州（米国）

チーム編成：団長1名、団員4名（男女問わず）年齢25歳～40歳

参加費無料：但し、事前研修に伴う費用、パスポート、旅行保険など自己負担

派遣期間：2002年3月下旬～4月下旬の予定

派遣目的：青年職業人の国際交流と自己啓発並びに国際理解増進

研修内容：派遣地区の社会、文化、産業等の視察研修ホームステイによる市民生活の体験的研修

2. 候補者の推薦要領

一般公募は行わず地区内ロータリークラブの推薦による。

受付期間：2001年7月9日（月）～8月24日（金）

3. 選考試験、合格発表

2001年9月9日（日）午前10時より 於：京都YMCA TEL (075) 231-4388

英会話、筆記試験（英作文、英文和訳）、面接

合格発表・団結式を試験終了後（午後4時以後）予定

お問合せ 地区G.S.E.委員会 委員長 佐野貞夫

詳細は7月上旬、各クラブに募集要綱を配布いたします。

「2002～2003青少年交換学生募集について」

青少年交換プログラムに格別のご理解とご協力、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

下記の通り、派遣学生を募集いたします。なにとぞ本計画の主旨を十分にご理解くださいます是非とも積極的なご応募とご協力をお願い申し上げます。

【派遣について】

《派遣先》アメリカ・カナダ・オランダ・ベルギー・デンマーク・スウェーデン・ハンガリー・トルコ・アルゼンチン・ブラジル・メキシコ・南アフリカ 以上12ヶ国

《資格》ロータリークラブの推薦する男女高校在学学生（2002年8月末の時点で15歳以上18歳未満で、学業は平均以上、なるべくクラスの上位3分の1以内の者。）

《期間》1年間（2002年7・8月出発）

《費用》往復航空運賃一切、疾病損害保険料、ユニフォーム代
青少年交換計画参加手続費用（100,000円）
その他、現地での学費、滞在費、若干のお小遣いは支給。

《派遣人員》約20名

《募集期間》2001年7月1日（日）より2001年9月17日（月）まで

《選考》地区国際青少年交換委員会が10月中に本人、保護者、クラブ責任者と面接し、選考します。

《お問合せ》地区国際青少年交換委員会担当委員

（松山 隆・堀 吉宏・楠 滋夫・酒井哲夫・西脇英樹）

あるいは地区国際青少年交換委員会 事務局（075-251-6600）まで。